

関西福祉科学大学大学院

使命

関西福祉科学大学大学院は、建学の精神「感恩」を心得、実践する人を育成し、豊かな未来社会を作る。
その達成に向け良質の教育活動と、活発な知的創造・研究活動を行う。

社会福祉学研究科

教育理念

福祉科学を支える「臨床福祉」の精神

福祉とは、人間生活における個人の尊厳を保障し自己実現を目指す社会的営為であり、福祉科学とはまさにそのような社会を構築するための理論と技術の総合科学であり、その実践を支えるものが「臨床福祉」の精神である。

社会的営為としての福祉は常に人間関係において成立するものであるが、我々は、そのような福祉的人間関係の本質を「臨床福祉」の精神に求める。すなわち「臨床福祉」とは「支援するものとされるもの」が、同じ地平において出会い、互いの人格を認め合い共感し、自らの将来に意欲を持って立ち向かうように支援することを意味するものであり、臨床福祉の精神が目指すものは単なる負の克服にとどまらない、より高次の積極的価値の生成である。

本大学院の目指すところは、人間の幸せを育て未来を拓く福祉科学の探求である。21世紀の福祉社会構築者に必須の《こころ》に支えられた《知》と《技》を究め、経験的事実を基礎とする近代科学の成果の上に立つ緻密かつ厳密な検証と創造を通じてミクロレベルにとどまらず、メゾ、マクロレベルでの福祉の推進や福祉理論の生成へ繋がれていくことを期するものである。

教育目的・目標

福祉社会を実現するために必要な高度な理念、理論、技術を教授し、人の幸せの実現に貢献できる高度専門職業人および専門職業人に対するリーダー・スーパーバイザー、ならびに研究者を養成し、福祉社会の構築に還流することを目的とする。

臨床福祉学専攻の前期課程では、現場の職業人に対して指導できるリーダーおよびスーパーバイザーを養成する。また、後期課程においては、社会福祉の高度な研究能力を育成することにより、教育者、研究者を養成することを目的とする。

心理臨床学専攻の修士課程では、心理臨床の高度専門職業人・心理臨床家を養成することを目的とする。

■臨床福祉学専攻

<博士前期課程>

2年間の在学期間を通して、社会福祉の理論と方法の統合をめざすとともに、講義と実習で身につけた実践理論と経験を基に、対人支援の価値と支援技術のみがき、修士論文作成を通して調査と理論的構築の力を深め、社会福祉実践のリーダーを養成することを目的としている。

<博士後期課程>

臨床福祉の領域における高度の理論と知識、また調査を含むさまざまな方法を身につけ、大学・大学院における教育と研究、あるいは各種研究機関における調査のエキスパートになり得る人を養成することを目的としている。

■心理臨床学専攻

<修士課程>

さまざまなこころの問題を背負っている人たちを支援するために、心理臨床学専攻では家庭、学校、コミュニティ、医療、産業において心理支援をおこなえる高度専門職業人としての心理臨床家の養成を目指している。

授業に加えて学内・学外の実習を通して心理査定、カウンセリング、遊戯療法などさまざまな臨床教育と経験を提供する。また、修士論文の作成を通して、調査の実践と理論の検証を行う。